## スウェ ーデン再発見

青と黄色の

キイチゴやブルーベリ

がつめる

ようになるでしょう。子どもたち

積もり、新しい腐食土ができるで 略)やがて木の下には、枯れ葉が

しょう。そこに種がおち、何年か

れば、いまは丸裸のこの森でも、

支え続けてきたものは何なのか…。 女性の社会進出や教育面でも注目を集めるスウェーデンを 今や環境先進国、 スウェーデンでは誰もが幼い頃に読み、

心に刻む大切な物語です。

福祉大国と呼ばれ、

小学校の地理の副読本として書かれた「ニルスのふしぎな旅」。

今から100年以上も前、

「スウェーデンの力」を探ります。 物語を読み解きながら、その根底に流れる

考えられますが、 鉱炉や工場の建設が主な原因と 影響で、製鉄用木炭の輸出が増 世紀後半のイギリス産業革命の 者であるラーゲルレーヴが正式 逃すことはありませんでした。 の危機を、スウェーデン国民が見 加したことや、鉱床発見による溶 消えていく森へ

多 る本数よりも植える本数の方が 林を義務化。現在に至るまで「切 林保護法が制定され、 依頼を受けた1902年の翌年、 に「ニルスのふしぎな旅」の執筆 903年にスウェーデンでは森 という見事な計画植林を実 伐採後の植

現し続けています

でも) 自由に入ることができ、ブ の森であっても、誰でも(旅行者 デン特有のものです。たとえ国王 宅地や畑に近づかなければ誰も 存在があります。一説にはバイキ ているからこそ、1 国民が自然に親しみ、自然を愛し のもの、自然はみんなのもの することも可能です。 自然が誰の「所有」であろうと ング時代からの慣習法だとも言 前から森林破壊の危険性に気付 われるこの権利は、森や湖などの ラーゲルレーヴは、この章の最 どもたちの先頭で輝くスウェー しょう。歌いながら登って来る ーベリーやキノコを採ったり 対策を講じることができたの 作者の自国への誇り

碑のような仕事です。なにもしな

これは、つぎの世代のための記念 ものがよみがえります。そうです。 イチョウがおどり、すべての命ある ヨシキリの歌声が響きわたり、 ていた山に、虫が飛びまわり、オオ

ければ、裸の・

山しか残せなかった

後をこう締めくくります

挿絵: ベッティール・リーベック 1887-1945

1931年版原書の挿絵を描き、高い評価とともに長く親しまれている。

### 監修:齋藤惇夫

作家・児童文学者。福音館書店の専務

取締役(編集責任者)として子どもの本 の編集に携わり、2000年に退社、創 作活動に専念。著書に『グリックの冒 険』(岩波書店・日本児童文学者協会 新人賞受賞)、『冒険者たち』(岩波書 店・国際アンデルセン賞優良作品賞受 賞)、『ガンバとカワウソの冒険』(岩波 書店・野間児童文芸賞、国際アンデル セン賞優良作品賞受賞) などがある。

よ

3

がえる森

がぱっと明るくなったように見え ばると、ニルスにはあたりの景色 らめかけていた場所でした。しか に植物がはえないだろう」とあき の場所は、大人たちが「もう永遠 火事が起きてから10年、 の種の乗った荷台が続きます。 生、森番の男、松の苗木やトウヒ スウェーデン国旗を先頭に行進し 声が聞こえてきます。 りを待っていました。ふと気付く になった山で、ワシのゴルゴの帰 し子どもたちが焼け野原に散ら ていた腐食土は風雨に運び去ら てくる子どもたち…後ろには先 その日、ニルスは山火事で丸裸 岩だらけのはげ 山の下の方から楽しそうな歌

山を覆っ

Ш

造る木材になるでしょう。(中略) きな木になり、りっぱな家や船を が植えた小さな苗木は、いつか大

山になったこ

どもたちは口々にそういうと、自

分たちはいま、とてもたいせつな

ことをしているのだ、とあらため

あわなくなるところだったね」

によかったわ」「もう少しで、まに 「あたしたちがここにきて、

残っている場所を見つけては、 せっせと苗木を植えました。(中 子どもたちは、 少しでも土が

> 「森と湖の国」と呼ばれ、 森林

て誇らしく感じました。

(下巻230頁)

なスウェーデン。そんなスウェーデ が国土の70%以上を占める緑豊か されていた時代がありました。 ンにも、かつては森林破壊に悩ま 18

# 記念碑のような仕事

のもの」とする「自然享受権」 人。その背景には「自然はみんな 泊なら許可なしにキャンプを 自然環境に敏感なスウェーデン 「利用」できるというスウェー 00年以上も 森はみんな

ウェーデン。北欧の木々は厳しい自 然環境の中でゆっくり、じっくり育 次代のために木を植え続けるス

> 年が経った今、スウェーデンが世界 ちが植えた小さな苗木は 言いながら、物語の中で子どもた を要します。「もう少しで、まにあ になるには80年 面、苗木が伐採できる大きさの木 に誇る、豊かな森になったのです。 わなくなるところだった」 つため、年輪がしつかり詰まった強 木材となります。しかしその反 00年の月日

(菱木晃子訳)によります。 ※文献は福音館書店発行、セルマ・ラーゲル

ラ

育ち、森ができれば、このあれはて

な枝ぶりになる木なのです。木が

茎ではなく、何十年後かにりっぱ

てくるのは、ひょろひょろとした あります。なぜなら、これからのび それよりももっと大きな楽しみが

が、いまやろうとしている仕事は、 入れを待つのは楽しいことです

春、畑に種をまいて、夏のとり

Present



訳者・菱木晃子さんのサイン本を上・下巻セット にして、抽選で1名様にプレゼントいたします。 を記念し、新訳で甦った珠玉の冒険物語です。 ご希望の方は、同封のコミュニケーションカー ドか官製はがきに、ご希望の賞品名・住所・氏 名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、 ご応募ください(3月10日消印有効)。官製はが きでご応募の場合、P.26の「お便り募集」の宛先 までお願いいたします。なお、当選者の発表は

賞品の発送をもってかえさせていただきます。

一昨年『ニルスのふしぎな旅』生誕100周年

でしょうに、この仕事のおかげで子

のです。のちの世の人たちは、祖先 孫にりつぱな森をゆずりわたせる

知って、感謝と尊敬の念を抱くで がとてもかしこい人たちだったと

(下巻233頁)

THE SWEDEN HOUSE 134